

## 平成 28 年度 第 2 回（震災後 第 6 6 回）

### 陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 28 年 5 月 27 日(金) 13:30～15:30

陸前高田市役所 4 号棟第 6 会議室

次 第

#### ◆テーマ

### 「下和野市民交流プラザから学ぶコミュニティの自発的な拡がりを促進していくためには」

#### 1 あいさつ

陸前高田市 民生部長 菅野利尚

#### 2 内容

##### （1）未来図会議のめざすところと「これから」

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

##### （2）報告

報告① 「陸前高田市、大槌町における応急仮設住宅訪問調査の結果から」

岩手県大船渡保健所 所長 久保慶祐氏

報告② 「下和野市民交流プラザの 1 年を振り返って」

社会福祉協議会 市民交流プラザ常駐員 阿部裕美さん

報告③ 「下和野団地自治会の活動について」

下和野団地自治会 自治会長 臼井佐一さん

報告④ 「下和野復興公営住宅について行政の視点から」

地域福祉課 課長 高橋良明

※その他参加者のみなさんから

他地区の公営住宅の取組みや、関係団体の工夫、栃ヶ沢公営住宅の準備状況など・・・

##### （3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒ テーマ：報告から見えてきた課題とこれからの具体的な取組みに向けて

～下和野での活動がさらに広がっていくためには、他の地域において

進めていくためには～

#### 3 その他連絡・アナウンス

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回：平成 28 年 6 月 17 日（金） 13：30～15：30

◆ 6 月メインテーマ（仮）：**誰もが住みやすいまちづくりに向けて**

**～今ある差別の実感、できている・できていない合理的配慮～**

◆ 会場：市役所 第 4 号棟 第 6 会議室

---

## 平成 28 年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議（月 1 回）の予定

○日程（予定）

H28 年：6/17（金）、7/22（金）、8/19（金）、9/16（金）、  
10/14（金）、11/11（金）、12/16（金）

H29 年：1/20（金）、2/17（金）、3/17（金）

○大きな方向性：**私から始める他人（ひと）ごと意識の解消**

**～ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの実践～**

- ・「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進
- ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践
- ・市民・他分野機関との協働、未来図（計画）策定
- ・居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

平成28年度 第2回  
(震災後66回)  
陸前高田市  
保健医療福祉未来図会議

平成28年5月27日(金) 13:30~15:30  
陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

本日(H28.4/15)の会議の概要

◆テーマ

下和野市民交流プラザから学ぶ  
コミュニティの自発的な拡がりを  
促進していくためには

本日(H29.5/27)の会議の進め方①

◆タイムスケジュール ~15:00

(1)未来図会議のめざすところと「これから」

⇒ 陸前高田市 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2)報告

報告①「陸前高田市、大槌町における応急仮設住宅訪問調査の結果から」

岩手県大船渡保健所 所長 久保慶祐氏

報告②「下和野市民交流プラザの1年を振り返って」

社会福祉協議会 市民交流プラザ常駐員

阿部裕美さん

本日(H29.5/27)の会議の進め方②

◆タイムスケジュール ~15:00

(2)報告

報告③「下和野団地自治会の活動について」

下和野団地自治会 自治会長 臼井佐一さん

報告④「下和野復興公営住宅について行政の視点から」

地域福祉課 課長 高橋良明

※発表の都度、課題やできていることなどを確認しながら、  
みなさんと共有させていただければと思います。

本日(H29.5/27)の会議の進め方③

◆タイムスケジュール ~15:00

(2)報告

※その他参加者のみなさんから

他地区の公営住宅の取組みや、関係団体の工夫、

栃ヶ沢公営住宅の準備状況など・

→ 西下災害復興公営住宅自治会

ワーカーズコープ

中田災害復興公営住宅自治会

陸前高田市まちづくり協働センター

本日(H28.5/27)の会議の進め方④

◆タイムスケジュール 15:10~15:20

(3)グループディスカッション

テーマ:報告から見えてきた課題とこれからの具体的な  
取組みに向けて

~下和野での活動がさらに拡がっていくためには、  
他の地域において進めていくためには~

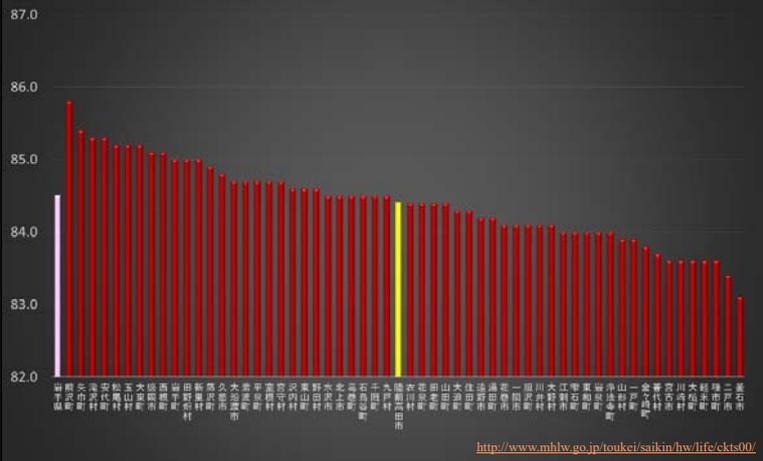
15:25~ 個別アナウンス・周知

未来図会議の目指すところと  
「これから」

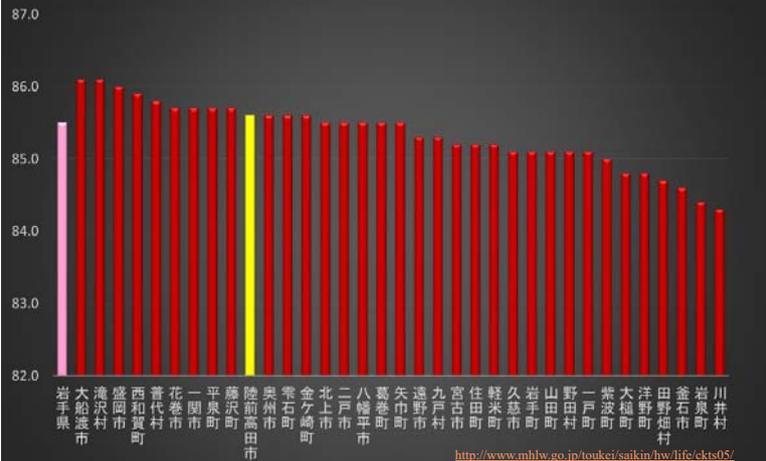
# PDCAサイクル

計画→実施→評価→改善  
で説明ができない結果

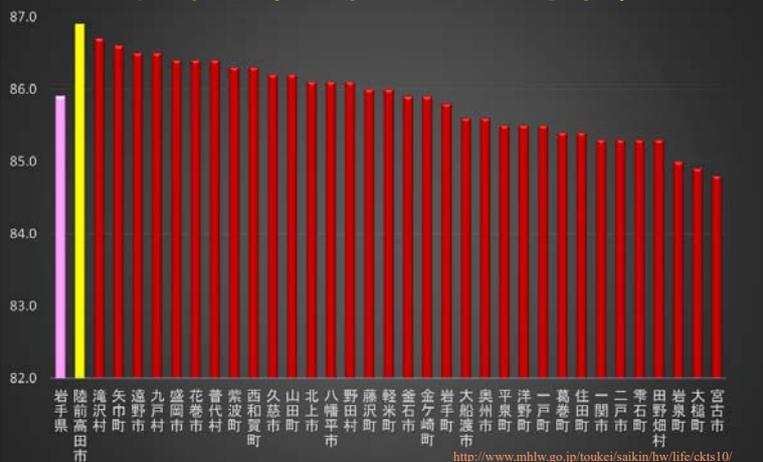
2000年 岩手県内市町村別平均寿命(女)



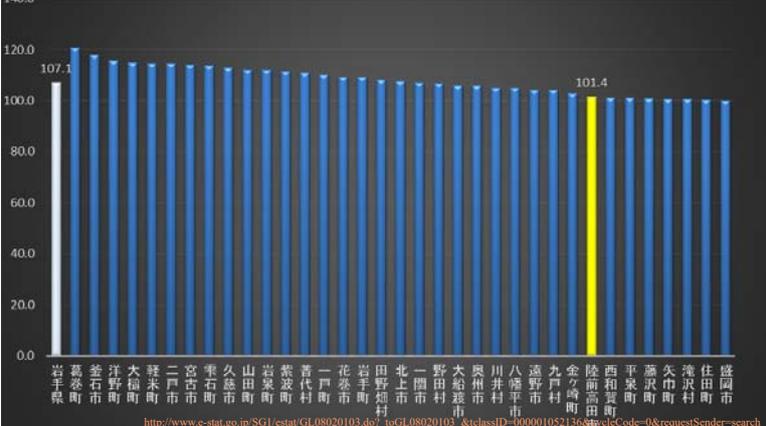
2005年 岩手県内市町村別平均寿命(女)



2010年 岩手県内市町村別平均寿命(女)

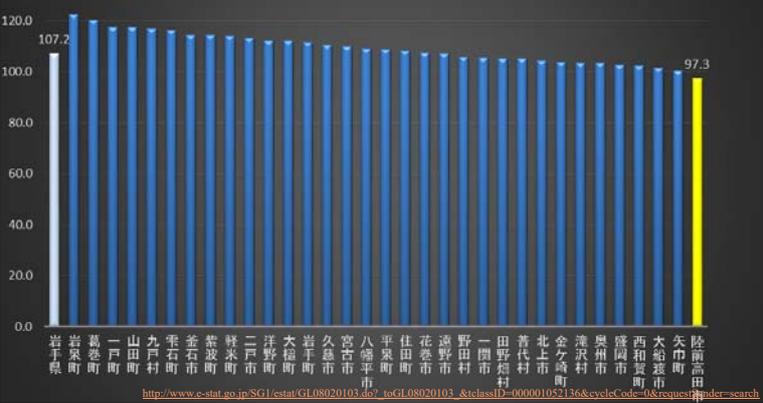


2003年～2007年 岩手県内市町村別  
標準化死亡比(ベイズ推定値)(男)

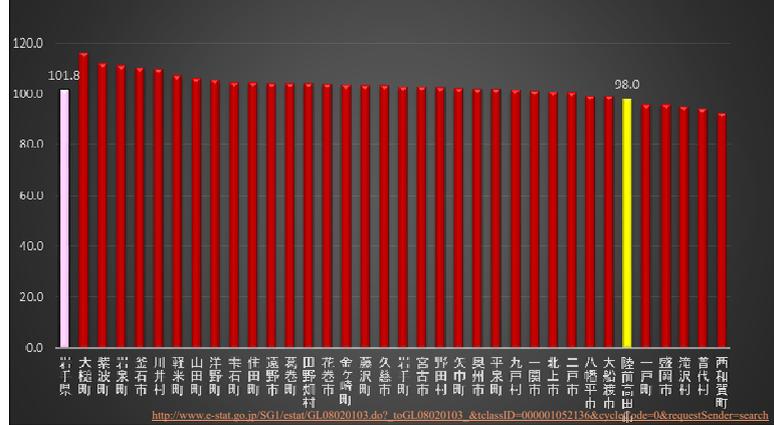


### 2008年～2012年 岩手県内市町村別 標準化死亡比(ベイズ推定値)(男)

(東日本大震災による死亡を除いた場合の参考値)

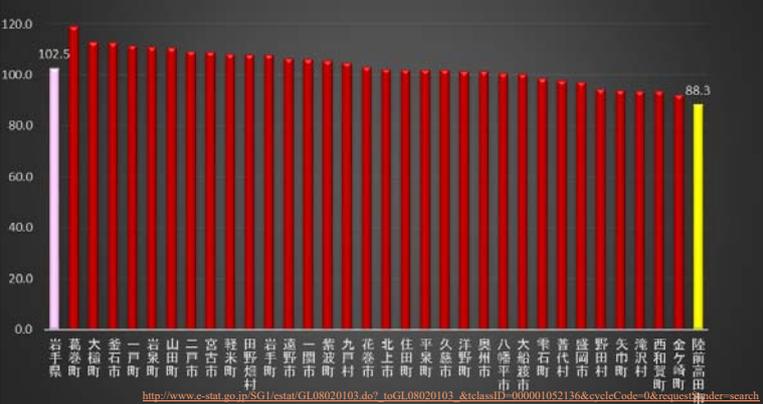


### 2003年～2007年 岩手県内市町村別 標準化死亡比(ベイズ推定値)(女)



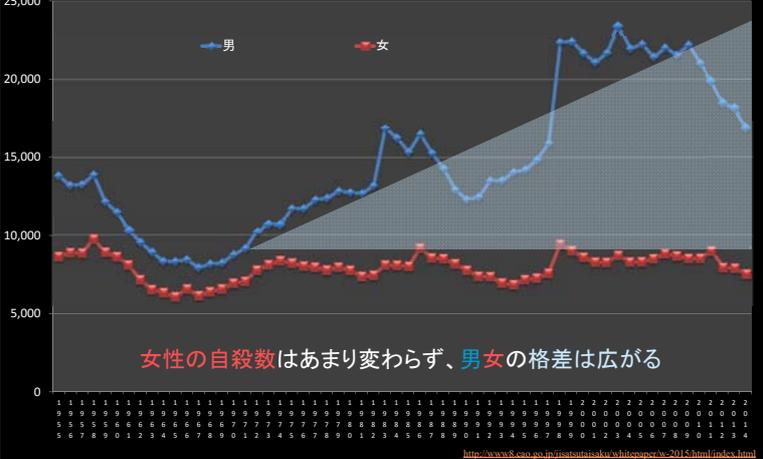
### 2008年～2012年 岩手県内市町村別 標準化死亡比(ベイズ推定値)(女)

(東日本大震災による死亡を除いた場合の参考値)

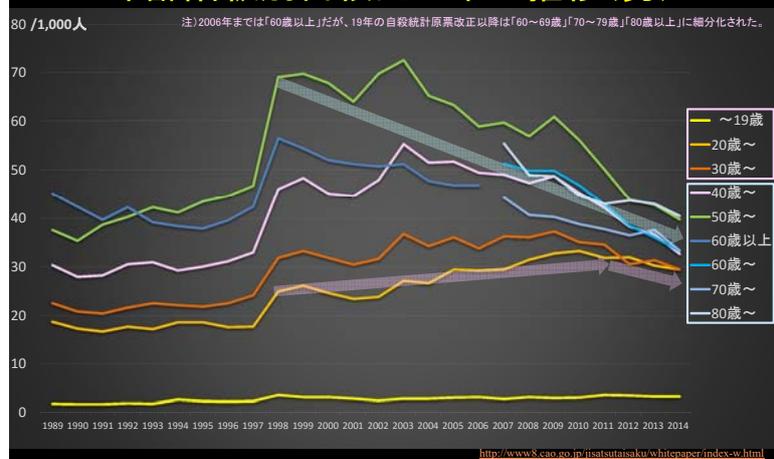


対策が上手く行っているのは？  
対策が必要なものは？

### 自殺者数の推移

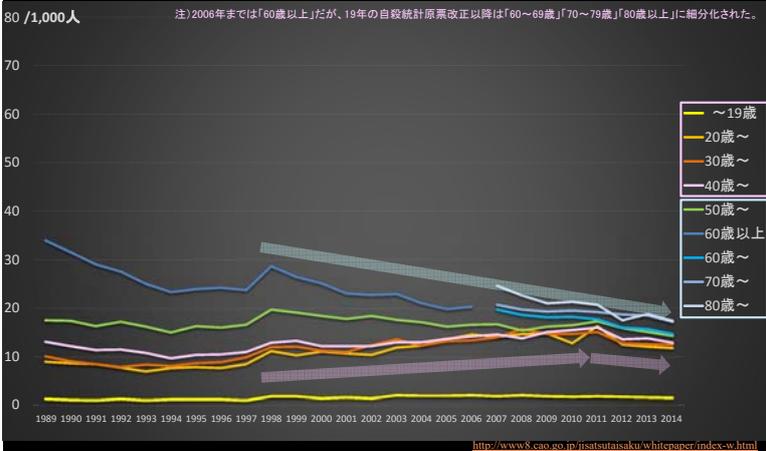


### 年齢階級別自殺死亡率の推移(男)



## 年齢階級別自殺死亡率の推移(女)

注)2006年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。



<http://www8.cao.go.jp/issatsutaisaku/whitpaper/index-w.html>

# 急がば回れ

メタボもこころのトラブルも  
居場所づくりから

## 健康日本21(第2次)概念図

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

### ソーシャルキャピタルの向上

#### ①地域のつながりの強化

〈ソーシャルキャピタルの向上〉

- ①地域のつながりの強化
- 〈多様な活動主体による自発的取組の推進〉
- ②健康づくりに主体的に関わる国民の割合の増加
- ③健康づくりの活動に主体的に取り組む企業数の増加
- ④健康づくりに関して身近で専門的な支援・相談が受けられる民間団体の活動拠点数の増加

〈健康格差の縮小〉

- ⑤健康格差の実態を把握し、対策に取り組む自治体の増加

# 「つながり」

たとえば

# 「絆」?

# 絆

はどう読みますか

## 絆(きずな)

つながり むすびつき

## 絆(ほだし)

手かせ 足かせ 迷惑 束縛

相反するから「お互い様」

## ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素

### 信頼

3つは相互に関連

### ネットワーク

絆(きずな:つながり、むすびつき)

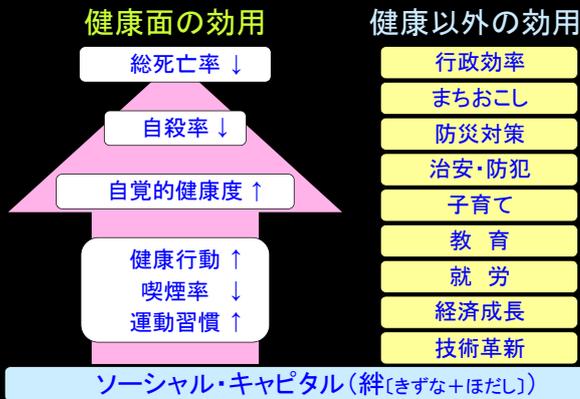
規範(互酬性)

### お互い様

絆(ほだし:手かせ、足かせ、束縛、迷惑)

[http://www.jpba.or.jp/sub/menu04\\_10.html](http://www.jpba.or.jp/sub/menu04_10.html)

## ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])の効用



平成26年度厚生労働科学研究(健康安全-危機管理対策総合研究事業)  
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあるり方に関する研究」  
<http://www.ipha.or.jp/shimane/2014.html>

## ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素



## 未来図会議は

どうつながりを強化するか  
どうコミュニティをつくるか  
の考え方を共有する場

## 仮設住宅の現状を学び、下和野団地で

どうつながりを強化したか  
どうコミュニティをつくったか  
を教えてください

## 1. 仮設住宅：依然として大きな被災地の課題

今年の 4 月に発生した熊本地震は地域の家屋に大きなダメージを残し、応急仮設住宅の建設が急がれている。5 年前に発生した東日本大震災津波被災の爪あととは依然として地域で大きく、岩手県では県全体で約 23,000 名の方が仮設住宅で生活しており、なかでも大槌町（人口 12,455 人）では 2,883 名、陸前高田市（人口 20,199 人）では 3,185 名もの被災者が想定された使用期間（2 年間）を大幅に超えた仮設住宅で生活している。災害公営住宅や高台移転への転居も始まっているが、例えば陸前高田市は平成 30 年末までに現在の仮設団地を 19 か所に集約すると表明しており、今後更に 3 年以上仮設住宅住まいを余儀なくされる人々がいることになる。多くの仮設住宅は医療アクセスが悪く、生活面でも利便性の悪い地区に立地している。長期化した仮設住宅での生活が住民の身体的・精神的・社会的な健康状態にどのような影響を与えているのかを明らかにするために、岩手県釜石保健所および大船渡保健所において仮設住宅住民の聞き取り調査とアンケート調査を行なった。

## 2. 保健所による仮設住宅の健康調査

圏域の陸前高田市および大槌町の応急仮設住宅の自治会長に直接面談して聞き取り調査を行うとともに、並行して訪問した仮設住宅住民向けにアンケート調査を行った。聞き取りは住宅状況、生活状況、健康状況、コミュニティの状況、今後の住宅計画などを尋ねる一定の質問票に沿って行ったが、質問票に囚われ過ぎないように、narrative な発言を引き出すよう配慮した。アンケートは心の健康状態を評価する尺度として「K6」の他、住宅の問題点、生活習慣病や医療機関への受診状況、医療アクセスなどを中心としたものとし、自治会長に各戸への配布を依頼し郵送で回収することとした。陸前高田市の仮設住宅では全 45 仮設団地中 31 団地（68.9%）を訪問することができ、大槌町でも偶然同様に全 45 団地中 31 団地（68.9%）を訪問調査することができた。

## 3. 訪問による聞き取り調査からは、仮設住宅の質が住宅ごとに大きく異なっていることがわかった。

(1) 住居に関して： 判明した住宅のハウスメーカーとしては D 社が最も多く、大槌では 7 仮設団地、陸前高田では 10 仮設団地を占めた（表 1）。他のハウスメーカーも大槌で 7 社、陸前高田では 6 社であったが、いずれも 3 仮設団地以下であった。同じ D 社製であっても遅い時期に立てられた物の方が満足度は高い傾向があった。部屋の狭さは共通の課題だが、防音性や断熱性の差は大きく、それらがプライバシー保護にも関連している。各団地で請け負ったハウスメーカーにより快適性に大きな差があり、それが生活の質に直結していることが判った。

	ハウスメーカー														単身世帯総数	カビ		防音	
	D社	Sa社	H社	Ni社	Se社	P社	K社	San社	N社	O社	F社	みなし	不明	有		無	有	無	
陸前高田市	10	2	3		1	2				1		1	9	100	18	11	10	19	
大槌町	7			3	1		2	2			1		7	127	11	10	8	13	
計	17	2	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	16	227	29	21	18	32	

表 1 聞き取り調査結果一覧

(2) 交通手段に関して： いずれの仮設住宅団地でも自家用車を中心であり、バスは便数や路線の面で不満が多かった。路線バスに加えて各自治体がコミュニティバスやオンデマンドバスを運行しているが、十分に活用されておらず認知度も高くない。また、高齢者にとってはバス停留所までのアクセスは距離とともに坂道の有無も重要である。75 歳を超えた後期高齢者でも、運転しなければ生活できないと考えている人も多く、地域の交通アクセスの問題は住宅の再建が進んでも大きな課題と考えられる。

(3) 身体面に関して： 高血圧などの生活習慣病などを罹患している人は、タクシーを利用してでも通院しているという例も多く、震災前より定期的に通院しているという人も珍しくなかった。通院状況には交通アクセスの影響はあまり感じられず、予想以上に各自が自己管理できていることが判った。住宅のカビは浴室や天井、壁などに高い頻度で発生していたが、喘息の発症は懸念されたほど多くなかった。

(4) 精神面に関して： 仮設住宅に特有の問題というものはないと聞いてこなかった、また、引きこもりや飲酒問題行動の頻度は少なかった。徘徊のある認知症の方の見守りを、仮設住宅で自然発生的に行なっているという仮設団地があった。

## 4. アンケート結果からは住民が精神的に疲弊していることがわかった。

K6 が要注意とされる 13 点以上を示した割合は陸前高田市が 12.1%、大槌町が 16.8%であり、平常時日本の平均とされる 3.0%はおろか、辻一郎・東北大学教授らの震災直後の石巻市雄勝・牡鹿地区調査（7.3%、2011 年 6～8 月）や坂田清美・岩手医大教授らが例年実施している被災者健診やと比べてもかなり高かった。K6 高値を示す者は、陸前高田、大槌ともに女性の方が多く、年代別の偏りはあまり認めなかった。仮設団地別で K6 の点数には偏りが認められ、K6 高値を示す団地は医療機関への交通アクセスがより悪い傾向を認めた。

地区ごと K6 平均点【陸前高田市】

(点、人)

平均点が高い順	1	2	3	4	5	6	7	8
地区名	矢作町	広田町	米崎町	横田町	竹駒町	高田町	気仙町	小友町
平均点	9.67	6.58	6.38	5.98	5.87	5.61	5.61	4.85
回答者数	54	38	89	72	91	101	39	33

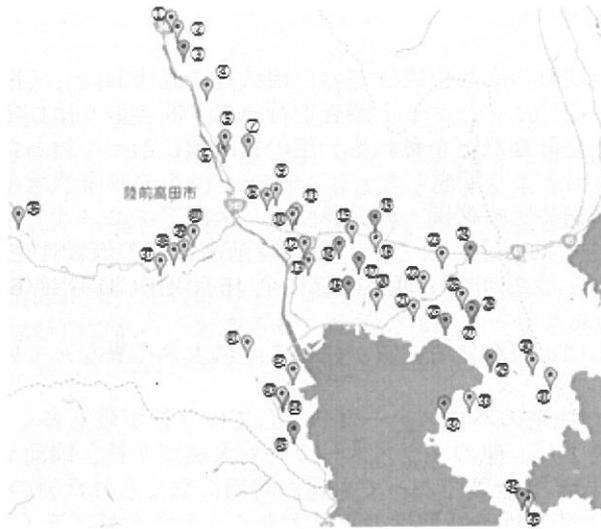
地区ごと K6 平均点【大槌町】

(点、人)

平均点が高い順	1	2	3	4	5	6
地区名	小幡東	吉里吉里 東新	小幡西	大槌東	大槌西	赤浜・安渡
平均点	7.98	7.52	6.79	6.16	5.63	4.35
回答者数	125	48	104	59	8	9

応急仮設住宅居住者健康調査 (H27 陸前高田市)

実施	未実施
① 大槌町 2 仮設住宅	① 大槌町 7 仮設住宅
② 大槌町 3 仮設住宅	② 大槌町 8 仮設住宅
③ 大槌町 4 仮設住宅	③ 小幡町 11 仮設住宅
④ 吉里吉里 仮設住宅	④ 小幡町 13 仮設住宅
⑤ 大槌町 5 仮設住宅	⑤ 小幡町 14 仮設住宅
⑥ 大槌町 6 仮設住宅	⑥ 小幡町 15 仮設住宅
⑦ 大槌町 7 仮設住宅	⑦ 小幡町 20 仮設住宅
⑧ 大槌町 8 仮設住宅	⑧ 小幡町 21 仮設住宅
⑨ 大槌町 9 仮設住宅	⑨ 吉里吉里 仮設住宅
⑩ 大槌町 10 仮設住宅	⑩ 吉里吉里 2 仮設住宅
⑪ 大槌町 14 仮設住宅	⑪ 吉里吉里 3 仮設住宅
⑫ 小幡町 2 仮設住宅	⑫ 吉里吉里 5 仮設住宅
⑬ 小幡町 3 仮設住宅	⑬ 吉里吉里 6 仮設住宅
⑭ 小幡町 4 仮設住宅	⑭ 大槌町 11 仮設住宅
⑮ 小幡町 5 仮設住宅	⑮ 吉里吉里 4 仮設住宅
⑯ 小幡町 9 仮設住宅	⑯ 大槌町 2 仮設住宅
⑰ 小幡町 10 仮設住宅	⑰ 大槌町 2 仮設住宅
⑱ 小幡町 12 仮設住宅	⑱ 大槌町 3 仮設住宅
⑲ 小幡町 16 仮設住宅	⑲ 大槌町 4 仮設住宅
⑳ 小幡町 17 仮設住宅	㉑ 大槌町 5 仮設住宅
㉑ 小幡町 19 仮設住宅	
㉒ 小幡町 仮設住宅	
㉓ 小幡町 6 仮設住宅	



● …… 実施 (31)      ● …… 未実施 (14)  
調査実施率 …… 68.9%

図1 陸前高田市 調査マップ

応急仮設住宅居住者健康調査 (H27 大槌町)

実施	未実施
① 大槌町 2 仮設住宅	① 小幡町 7 仮設住宅
② 大槌町 3 仮設住宅	② 小幡町 8 仮設住宅
③ 大槌町 4 仮設住宅	③ 小幡町 11 仮設住宅
④ 吉里吉里 仮設住宅	④ 小幡町 13 仮設住宅
⑤ 大槌町 5 仮設住宅	⑤ 小幡町 14 仮設住宅
⑥ 大槌町 6 仮設住宅	⑥ 小幡町 15 仮設住宅
⑦ 大槌町 7 仮設住宅	⑦ 小幡町 20 仮設住宅
⑧ 大槌町 8 仮設住宅	⑧ 小幡町 21 仮設住宅
⑨ 大槌町 9 仮設住宅	⑨ 吉里吉里 仮設住宅
⑩ 大槌町 10 仮設住宅	⑩ 吉里吉里 2 仮設住宅
⑪ 大槌町 14 仮設住宅	⑪ 吉里吉里 3 仮設住宅
⑫ 小幡町 2 仮設住宅	⑫ 吉里吉里 5 仮設住宅
⑬ 小幡町 3 仮設住宅	⑬ 吉里吉里 6 仮設住宅
⑭ 小幡町 4 仮設住宅	⑭ 大槌町 11 仮設住宅
⑮ 小幡町 5 仮設住宅	⑮ 吉里吉里 4 仮設住宅
⑯ 小幡町 9 仮設住宅	⑯ 大槌町 2 仮設住宅
⑰ 小幡町 10 仮設住宅	⑰ 大槌町 2 仮設住宅
⑱ 小幡町 12 仮設住宅	⑱ 大槌町 3 仮設住宅
⑲ 小幡町 16 仮設住宅	⑲ 大槌町 4 仮設住宅
⑳ 小幡町 17 仮設住宅	㉑ 大槌町 5 仮設住宅
㉑ 小幡町 19 仮設住宅	
㉒ 小幡町 仮設住宅	
㉓ 小幡町 6 仮設住宅	



● …… 実施 (31)      ● …… 未実施 (14)  
調査実施率 …… 68.9%

図2 大槌町 調査マップ

## 5. 仮設住宅のクオリティ：住居そのものの質、交通アクセス、コミュニティの居心地の良さに規定される。

応急仮設住宅には想像以上に多様性がある。中学校の校庭に位置する典型的なプレハブ住宅もあれば、公園内に点在する木造のバンガローのような作りの住宅もある。仮設住宅のアンケート調査はこれまでに様々な機関により多数実施されているが、被災地に生活する我々としては、“仮設住宅”と一括りにされることには違和感を感じるがあった。仮設住宅にも相対的に利便性が高く、居心地の良いところもあるのではないかと。夏から冬にかけ半年渡る訪問調査を続け、季節の中での仮設住宅の多様性を目の当たりにし、1)住居そのものの快適性、2)日当たり、水はけや交通アクセスなどの立地要因、3)そのコミュニティにおける居心地の良さなどが複合して、その住宅の住み易さを規定していると考えに至った。

1) 住宅の快適性：仮設住宅により断熱性や防音性がかなり異なっていることが聞き取り調査でわかった。同一のハウスメーカーの住宅でも、かなり違った印象を受けることも多く、施行時期や施行実施者による違いなどもあるようである。防音性に関しては、極端な場合には隣室の生活音が電話で何を話しているかに至るまで丸聞こえの住宅もあり、極めて強くストレスを受けている人と全く気にならない人と二極化しているようである。寒暖の辛さに関しては以前の住居と比べてもそれほどでもないという人が多く、夏のエアコンが必須になったが耐えていけるという人が多かった。また、その間取り（居室が立て並びか横並びか）も重要な要因で、これにより家族間のプライバシーの保護が大きく違ってくる。立て並びの居室の場合には、キッチンやバスへの移動の際に他の居室を必ず通る必要があり、家族間とはいえプライバシーの部分で問題があると訴える人が多かった。しかし、何にも増して住民が例外なく不満を訴えるのは、その狭小さである。収納スペースの少なさや被災後の入居時から徐々に生活用品が増えていくことで、居住スペースが毎年狭くなり、現在ではこれが限界に達してきている。足の不自由な高齢者などでは布団の上げ下ろしよりもベッドを利用した方が負担は少ないが、現状で居室にベッドを導入するのは極めて困難である。現在どの仮設住宅も空室が増加しており、住民からは空き部屋を荷物置場などとして利用できないかという要望が多い。今後計画されている仮設住宅の集約化において、このことが考慮される必要がある。

2) 立地要因：カビの発生は住宅そのものの質（床下換気や断熱性、気密性）の要素が大きいですが、全く同一の住宅であっても水はけや日当たりによって発生の有無が大きく異なってくる。同一団地内でも部屋の位置によって水はけや日当たり異なり、カビの発生状況も大きく変わってくることもある。立地場所による交通アクセスの問題は、特に自家用車を運転しない高齢者にとって重要性が高い。被災前の自宅に比べて、仮設住宅は多くの場合医療機関や商店までの距離が離れていることに加えて、バスの便は午前中で2~3本と少なく路線も不便である。市町がコミュニティバスやオンデマンドバスを運用しているが、十分に認知・活用されていない。アンケート調査の自由記載欄では、バス路線の改善、増便を求める声が圧倒的に多かった。また一部の団地を除き、隣接するバス停までは歩いて5分程度の距離であったが、坂道が多く高齢者には負担が大きいことも多かった。このような状況のなか医療機関への通院にはタクシーを使う人も多いが、それでも通院を続けられるのは被災者の医療費負担金免除が大きいとのことで、この制度は仮設住宅住民に対しては今後とも継続して欲しいとの要望が多かった。このような交通アクセスの問題は高台移転や災害公営住宅移転後も継続するわけで、今後の人口動態を考えた場合に、認知の問題等で運転免許の返納を迫られる人も増加し、ますます大きな課題となってくると予想される。

3) コミュニティの居心地のよさ：比較的小規模の仮設団地は出身も同じ地域で、被災前から顔見知りの人が多いためコミュニケーションの問題も少なく、自治会長としては楽であったという声をよく聞いた。他方、大型の団地で住民も200名を超えるようなところでは顔と名前が一致するまで1年位かかったということが多かった。発災からしばらくの間は様々なNPO等の支援によるイベントも多く、それが慰安、娯楽に留まらずコミュニティの形成に関してもかなり有効であったらしい。最近ではNPOの活動も少なくなり、仮設団地での自治会活動やイベントなどのアクティビティに積極的に関与しているのは65歳以上の高齢者が多い。現在でもラジオ体操や花見、納涼会などを積極的に開催している団地もあり、そのような団地のほうが住民も活動的に見える。他方、若者や働き盛りの者は家庭や学校、職場が主要な社会活動の場であり、仮設団地にはあまりコミュニティとしての働きを求めている。仮設団地内にコミュニティをより必要としているのは日中も仮設内で過ごすことが多い高齢者あるいは単身者であることは明らかである。世代間のあり方の溝を埋めるのは困難と考えるが、被災を乗り切った仲間としていざという時の助け合いは前提として、今後のコミュニティ形成支援は高齢者・単身者を主たる対象として実施していく必要があると考える。

## 6. 今後の仮設住宅と災害公営住宅のコミュニティ

災害公営住宅に移転後のコミュニティのあり方に対する住民の不安は予想以上に大きかった。マンション形式の復興住宅のがっしりとした鉄扉が嫌だ、閉めると周囲の物音がまったく聞こえず不安になる、周囲から強制的に隔離されたようであると訴える高齢者が多い。そのような人達にとっては、仮設住宅の脆弱な防音性や断熱性はあまり問題とならず、自然を感じながら、呼べば直ぐに伝えてくれるような隣人との距離感が心地よいらしい。この点では都市の災害であった神戸とは大きく異なるのではないかと。コミュニティ形成の視点から考えたときに、マンション型の災害公営住宅が良かったのかどうか十分に議論される必要があると考える。実際、大槌町では一部で木造長屋型の災害公営住宅も建設されており、住民の人気も高いようである。

他方、陸前高田市、大槌町とも移転先の高台の整地にはなお 2~3 年を要する区域が多い。自力再建を志す仮設住宅住民には平成 30 年頃までの仮設住宅生活を覚悟していると語る人が多かった。K6 の結果などから精神的に疲労してきていると考えられる被災者が、5 年を耐えた後この先さらに数年間の仮設住宅生活を続けることには、自力再建の希望があるにしても大きな懸念がある。仮設団地には今なお小中学校の校庭を利用しているところも多く、被災地学童のためにも一日も早い移転が望まれるが、仮設住宅の集約にあたっては、少しでも快適性が高く利便性も高い仮設住宅を選択し、十分な補修維持と空室の有効利用が図られる必要があるだろう。

## 7. 目指すべき街づくり

仮設住宅住民の最大、共通の関心事は今後の住まいをどうするかであるが、災害公営住宅は若い世代にも高齢者にも押しなべて人気が無い。比較的收入が高い働き盛りの世代にとっては、支払うべき家賃が高く平等でないことに対する不公平感があり、高齢者にとっては前述のように都会のマンションのような共同住宅の作りが馴染めないようである。結果的に若年世代のみならず高齢者も、資金的にかなり無理をしてでも自力再建を目指している例が多い。実際、個々の災害公営住宅の中には入居率が低かったり、計画の段階での見直しを迫られているものもある。住居に関する住民の希望調査を基にして災害公営住宅は計画されているはずだが、入居希望者は大きく下回る例がある。今なお住宅の計画を決められないと答える人も多く、被災者の気持ちは揺れているのだと思う。自分の年齢や資金面などから理性的に考えると災害公営住宅を選ぶべきと思いながら、“自分の家”を諦められない人も多いように思える。高台移転を選択したとしても、旧市街と比べて、公共機関、病院、ショッピングセンターなどへの交通アクセスは悪く、高齢者にとっては大きな負担となるであろう。同じ圏域、被災地でも、街の輪郭、機能がはっきりしている釜石市の場合には、利便性の高い災害公営住宅の人気は高い。陸前高田市や大槌町の住民のなかには、今後の街の姿、中心地がはっきり判らないと感じている人も多い。このような人達に対しては災害公営住宅の計画とともに、目指す街づくりに対する提案が必要なのではないか。高齢者が暮らし易い利便性に優れたコンパクトシティを目指す方向性などを今からでも打ち出せないだろうか。

熊本地震においても、都市部に比べ農村部のレジリエンスはより脆弱と考えられる。直面している現状への対応だけでもたいへん困難な時期であろうと思うが、将来の復興したあるべき街の姿を今から構想し、被災した住民にできるだけ早期に、魅力的な災害公営住宅を通じた街づくり、コミュニティ作りを提案できるように望みたい。

# 陸前高田の災害公営中田団地

## 大所帯の絆強く

### 自治会が初の行事 住民交流、会話に花



陸前高田市高田町の災害公営住宅中田団地自治会(中井力自治会長)は22日、自治会として初の行事となるお花見会を開いた。同団地は県内でも最大規模(197戸)だが、まだ互いに顔を知らない住民も多い。横のつながりと活気がある場所にしようと呼びかけられた会には約60人が集い、会話に花を咲かせた。

住民らは手作りの紙花を飾った同団地の集会所に、部屋番号を書いた名札を付けて集合。ちらしうしや煮しめ、団子などを楽しみながら、有志による大正琴や三味線演奏、歌唱、舞踊、

大正琴の演奏や食事を楽しみながら会話を弾ませる住民ら

チンドンなど多彩な芸能披露で盛り上がった。

高橋和枝さん(63)は「和やかな会になって良かった。何でも気軽に言い合えるような関係にしていき

## 緑の復興 ドングリに願い

### 新生やまだ商店街 園児らが植樹会



地域復興の願いが込められたドングリの苗木を植樹する園児たち

山田町中央町の新生やまだ商店街(昆尚人理事長)で22日、全国の子どもたち

が東日本大震災の被災地の緑の復興を願って育てたドングリの苗木の植樹会が行

われた。NPO法人子ども森づくり推進ネットワーク主催

い」と顔をほころばせた。同団地は129世帯230人が暮らす。団地一つが行政区となっていて規模も大きく、市内全域から東日本大震災の被災者が入居していることもあり、交流はまだ限定的だ。

自治会は昨年12月に設立。定期的な行事開催を見据え、女性部と青年部を設けた。「あいさつを欠かさない」「回覧板は顔を合わせて手渡しで」と呼びかけたり、住民共同の畑作りなどに取り組んでいる。中井会長(67)は「大所帯だが協力し合って、『横のつながり』を大切にしていきたい」と力を込めた。



# 顔と顔、見える付き合いを

## 中田団地で初の住民交流会

陸前高田

1977戸が整備された陸前高田市高田町の災害公営住宅中田団地(中井力自治会長)で21日、自治会として初めての住民交流お花見」会が開かれた。市内各地から入居者が集まる同団地では、特に新しいコミュニティをしっかりと形成・保持していくことが課題となる。自治会では顔と顔が見える付き合いの中で、相互扶助の精神がはぐくまれていくよう、「住民総参加」の組織運営にも工夫を凝らす。

入居が始まっている公営住宅としては最大規模となる中田団地。団地だけで一つの行政区となつているほどで、現在は129世帯、およそ230人が暮らす。入居は昨年11月からスタートしているが、今回のお花見会が住民同士では初めての交流の機会となった。

この日は2号棟の集会所に住民たちおよそ50人が集まった中、区長であり自治会長でもある中井さん(67)が、自治会の中に「女性部」と「青年部」を設けたことを発表。それぞれの役員らも紹介された。

お花見会は女性部が中心となつて準備を進めたといひ、テーブルに並べられたごちそうの数々も女性たちが分担し用意した。一方で会場には生木に紙の花

をあしらった「桜」を設置。これは男性たちが協力し合い作ったものだという。

乾杯のあいさつに立った小野寺彦宏さん(81)は「自分にとってはこの団地が終(つ)いのすみかであり、ここから新しい『町内会』のスタート。元気で長生きするために、つながりと笑顔が大事」と述べた。

大正琴「琴石会」の発表をはじめ、民謡や日本舞踊など、女性らの余興も「花」の一つに。この日初めて顔を合わせた人たちが多く、アルコールもたしなみながらの会話で親ほくを深めた。

「もともと同じ町内にいた人でなく、いろんな地域から住民が集まっている団地。私自身、顔は広いほうだと思っていたが、名前と顔が一致する人は20人程度しかいなくて驚いた」と中井さん。

阪神淡路大震災の被災地でも、公営住宅自治会組織の高齢化や人手不足といった課題が指摘されてきた中、女性部や青年部を設け、それぞれ役割を持って参画することが、持続可能なコミュニティ形成につながるかと考え

思っていたが、名前と顔が一致する人は20人程度しかいなくて驚いた」と中井さん。

「行政から配布依頼があったものを班長へ配る時も、「ポストへ入れればなしではなく、必ずインターホンを押して、顔と顔を合わせて渡すようにしている」と中井さんはいひ、住民にも朝夕のあいさつをはじめ、互いの声掛けを大事にしようと

訴える。今後はつながりづくり、生きがいづくりの一環として農園開設なども計画。「今回のお花見も、女性部や班長さんたちが想像以上に一生懸命やってくれた。人口減少や高齢化といった課題は、こうした地域力、住民力でカバーしていければ」と中井さんは話し、陸前高田市民がもともと持っているパワーに期待した。

# 華やかな新緑を満喫

## 大窪山自然公園で散策会

大船渡

大船渡市三陸町の大江田河内自治会(古水力会長)と県沿岸広域振興局大船渡農林振興センター主催の大窪山森林公園散策会は22日、同町吉浜の同公園

マツツジなどが広がった山道を歩いた。



森の学び舎で行われた。初夏を思わせる陽気のなか、参加者は見ごろが近いヤマツツジの開催で、テーマは「新緑を感じながら」。市

# 造形 土偶から

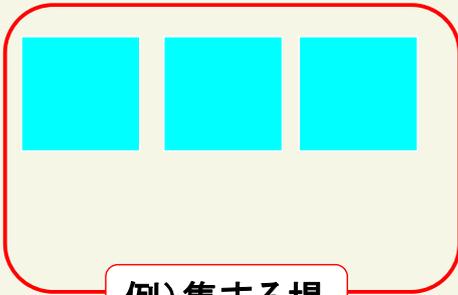
大船渡市立博物館

設展示を一部変更

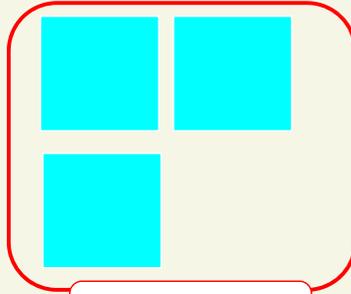
# グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

◆報告から見えてきた課題とこれからの具体的な取組みに向けて

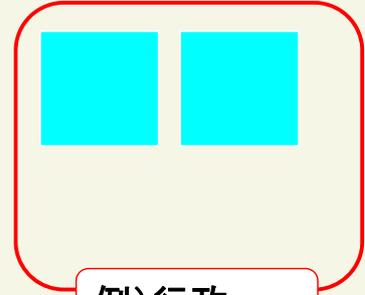
下和野での活動がさらに広がっていくためには、他の地域において進めていくためには



例) 集まる場



例) 関係者



例) 行政

## グループディスカッションにおける はまかだルール

- 1 ファシリテーター(進行促進者)にご協力を
- 2 話の内容は簡潔にわかりやすく
- 3 テーマ、具体目標に立ち返って適切に
- 4 メンバーの意見を否定や排除はしません
- 5 明るい表情で
- 6 はっきりと大きな声で

限られた時間でお互いが元気になるように

## 2016.5.27 見えてきた課題、できていること①

### ◆陸前高田市、大槌町における応急仮設住宅訪問調査の結果から

課題	できていること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相対的に住居の快適性の違いがある</li> <li>・防音性、プライバシーの違いもある</li> <li>・間取り、バス停までの距離の違いも重要</li> <li>・復興公営住宅へ転居しての不安</li> <li>・住まい方が違うため、集合住宅への抵抗ある</li> <li>・心の健康(K6)の高い方がある               <ul style="list-style-type: none"> <li>→病院までのアクセスに時間がかかる人は高い傾向にある</li> </ul> </li> <li>・長期の仮設住宅生活で精神的に疲れている</li> <li>・仮設住宅ごとの心の健康の程度が異なる               <ul style="list-style-type: none"> <li>→アクセスが不便なところは高い傾向にある</li> </ul> </li> </ul> <p>◆大事なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居の快適性</li> <li>・交通アクセス、日当たり、水はけ</li> <li>・コミュニティの居心地のよさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンガロー風の木造仮設住宅もある</li> <li>・震災前より医療機関に通い、健康意識も高い               <ul style="list-style-type: none"> <li>→命を大切にという思いが出てきてる【希望だ】</li> </ul> </li> <li>・社会福祉協議会等の見守りができている               <ul style="list-style-type: none"> <li>→引き続き大切にしていける必要がある</li> </ul> </li> <li>・ラジオ体操をしているところは元気な方多い</li> <li>・小友町は満足度が高い傾向にある</li> </ul> <p>◆今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集約化にあたり、快適性を大事に</li> <li>・長屋型や買い取り型の形もあってよい</li> <li>・数の多さを逆に大事にする(メリットにする)</li> </ul> <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋肉が減らないように(サルコペニア予防)</li> <li>・県立大船渡病院、高田病院との連携</li> <li>・未来かなえネットを活用</li> <li>・若い世代のICTを使ったコミュニティ形成</li> </ul>

## 2016.5.27 見えてきた課題、できていること②

### ◆下和野市民交流プラザの1年を振り返って

課題	できていること
<p>◆経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年10月に入居スタート</li> <li>・2015年4月に市民交流プラザがスタート</li> </ul> <p>◆1周年のお祭りをしたことのキッカケなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、利用されている方と話し合いながら、社会福祉協議会と協力して進んできた</li> <li>・いろんなパワー、つよみを持っている住民さんたちが多数おられるおかげ...</li> <li>・この市民交流プラザ開所1周年のお祭り開催の準備や進める課程が、この1年の市民交流プラザの様子を物語っている</li> </ul>	<p>◆2016.4.22の1周年記念まつりから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地の方々だけでなく、地域の方々も出てきたり、参加してくださっている</li> <li>・はまらっせん農園、麻雀会(週1回、10:00~)、刺繍など各取組みの発表、共有ができた</li> <li>・おふるまい(お昼)の作るのも住民の方々とともに集会室を使って150食作ることができた</li> <li>・団地内に入居されている障害のある方の挨拶もあり、お互いに知ることができた</li> <li>・社会福祉協議会と一緒に花笠音頭をできた</li> <li>・餅まきの餅も住民さんが作って(366個)できた</li> <li>・高田音頭も踊ることができた</li> <li>・準備、片付けも一緒に行うことができた</li> <li>・プラザを利用する人、しない人があるが、キッカケづくり、積み重ねをしながら進んでいる</li> </ul>

## 2016.5.27 見えてきた課題、できていること③

### ◆下和野団地自治会の活動について

課題	できていること
<p>◆2014年10月に入居して1年半が経った</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1号棟は6階、2号棟は7階建て →119/120戸、入居している、人気ある</li><li>・集会室5つ ……いろいろ利用できている</li><li>・岩手大学のコミュニティを作っていく研修を受けたが…</li><li>・千葉大学の各家庭の訪問アンケートから見えてくることもある… 車のありなしは大きい</li><li>・一人暮らしで亡くなっている方もあった</li><li>・自治会総会がある(役員の改選) →今後、移転者も出てくる、60代が少なく、70代以上多い、若い世代は働いていて難しい</li><li>・コミュニティを作りましょう、話しましょうとは言っているが… →実際、どのように作っていくとよいのか</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・バス停が団地敷地内にある (でも帰ってくる便が少ない)</li><li>・町内会費:1200円/月としている →未納者なく、団地内の照明電気代の節電をして、黒字を出している</li><li>・家賃も柔軟性があってよい</li><li>・市民交流プラザで、月1回食事をする機会をもっていることはよい</li><li>・外からいろいろなみなさんが来て、例えば去年は盛岡の学生がきてくれて夏祭りをしてくれたが、今後は自分たちでもしていこうという声も出ている →今でもできていることがたくさんある</li><li>・麻雀クラブは、「のまない、すわない、かけない」で楽しくやっている</li></ul>

## 2016.5.27 見えてきた課題、できていること④

### ◆下和野復興公営住宅について行政の視点から

課題	できていること
<ul style="list-style-type: none"><li>・相談やこまりごとへの対応がその場、その場で対応が後手に回ることもあった</li><li>・仮設住宅から公営住宅への移る際のフォローの部分が弱かったのではないかと</li><li>・コミュニティづくり、地域づくりという視点、取り組みが初めてで戸惑うところもあった</li><li>・顔の見える関係づくり、入居前からそういう機会を持っていきたい</li><li>・ハイリスク(要支援者)だけの対応ではなく、問題が起きる前から取り組んでいきたい</li><li>・現状を知り、行政、自治会、家族、地域でできることをやっていきたい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・任意の世帯調査(アンケート)も行い、交流プラザとのつながり生まれたところもあった</li><li>・自治会、市民交流プラザに限らず、一人ひとりが自分ごととして、場所を作ってくることができたのではないかと</li></ul> <p>◆行政の中で地域づくりするところは？</p> <p>〇〇課、△△課が担当ということではなく、それぞれの部署でできることをしながら、地域とつながり続けられることが大事ではないか</p> <p>行政の中でも全てのところでそういう意識で進めて行くことが大切</p>

# 2016.5.27 見えてきた課題、できていること⑤

## ◆その他、参加のみなさまから

課題	できていること
<p>◆ワーカーズコープ林農海(りんのうかい)直売所 ・転換期を迎えて、一からばらばらになることも想定して、サロン活動を地元人を講師に迎えながらやっている →地域で支え合える 住民同士ができるように →大槌の長屋タイプの70代多かったり。 入居から半年が立ち上がったたりしている 誰でも立ち寄れる場所が必要</p> <p>◆栃ヶ沢災害復興公営住宅【2016年7月入居開始予定、301戸 ※県内最大規模】 ・入居開始に向け、関係機関で協議をしているのが現状</p>	<p>◆西下災害復興公営住宅【2014年12月入居開始、36/40戸】 →となり同士で顔を合わせるのが大事 →いろいろな各団体からの支援を受け、見守ってもらえたのがよかった →立教大学:七夕の応援あった(材料は自分たちで出しながら)、お茶のみ会をしたり、クリスマス会も盛大に、子どもから大人まで参加してきた →草刈り等も月に1回、掃除の日を決めてやっているのよ</p> <p>◆中田災害復興公営住宅【2015年11月入居開始、129/197戸、2015年12月自治会設立】 →先日、初めてのお花見会を開くことができた 他の自治会との情報交換会を開いて、女性部、青年部作ったりしながら進んでいる</p>

## 2016.5.27 グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

### ◆報告から見えてきた課題とこれからの具体的な取組みに向けて

### 下和野での活動がさらに広がっていくためには、他の地域において進めていくためには

- ・外トイレが使えないという現状があり、自治会とうまく相互にできるようにしていきたい
- ・仕掛けとキッカケが大事、単身者の支援、顔が見える関係にいかにつなげるか
- ・生活するには快適な環境が大事、市民も行政も自分事に考えることが大切
- ・食を通じての交流がやはり大事、よい
- ・区画整理対象地区:入居前から顔が見えるためには、住民だけは限界がある、行政の持っている情報の力
- ・老人クラブと道路の掃除を一緒にしている、お茶のみ会を新しい方に伝えていくことなどの機会が重要
- ・月1回の掃除がいい、一人世帯が多く、全員が出てきてくれるため、よい顔合わせの機会になる
- ・集会室にカギをかけないことで、誰でもどんなときでも使え、子どもたちも遊んでいる、トイレが使えるのもよい
- ・会費を集めるための定例会が毎月あることも大事
- ・中田団地の交流会:他の地区から入居している方にとってはイベントよい顔合わせになる
- ・おもてなしの心が高田の人はあり、そのことを大切に、活用する
- ・「ぜんぜんやっていない～」と言いながら、実はよくやっている人たちばかりである
- ・中田団地の世帯数の大きさもたいへんだが、逆に小さいところも小さいなりの課題がある
- ・顔が見える関係性:栃ヶ沢団地は世帯数が多く、入居してからのことを見据えて取り組んでいく必要がある
- ・阪神淡路大震災の例から見ても、10年くらいのスパンで見えていくことが重要
- ・集会所等でなんでも相談のような場を設けることの必要性

コミュニティは大事だが  
いつまで行政がかかわるの  
少しすると成果も見えない  
で躓かないために

共有したい  
何がコミュニティ？  
どうつながりを強化？

集まりやすいテーマはそれぞれ違う



麻雀



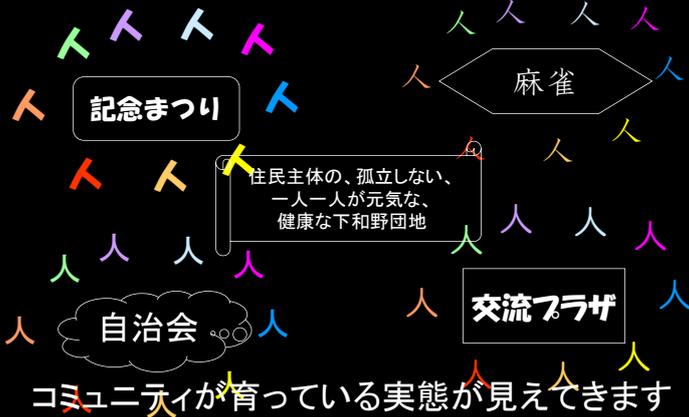
自治会



交流フラザ  
農園

小さいつながり  
個人的なつながり  
は既に進んでいる

自分たちがやりたい活動で顔がつながる  
コミュニティという視点で見直すと



大事なものは

コミュニティ  
を堅苦しく考えず、いろいろな人が  
つながり続ける  
環境を仕掛け続けること

## 林農海直売所ワーカーズコープ サロン活動の様子

林農海直売所ワーカーズコープでは、竹駒駅横に開いている直売所を使って高齢者の居場所づくりを行っています。主に高田一中仮設と竹駒小学校仮設にお住まいの方を対象に送迎つきでサロンを行っています。

特徴としては、サロンの講師も地元のいろんな特技を持った方にご協力頂き手作り感を大事にしています。参加者の方が自主的に漬物やがんづきなどを手作りして持ってきたり、お茶くみなどもしてくれています。参加するみんなで作るサロンの形を大事にしています。

また、御帰りの際には野菜などを買って帰られます。

	日程	参加人数	内容	講師	対象
1	1月20日	12人	かばんづくり	菅野英子	竹駒小
2	1月30日	11人	かばんづくり	菅野英子	高田一中
3	2月23日	11人	お手玉	岡田トミ	竹駒小
4	3月14日	18人	お手玉	岡田トミ	高田一中
5	3月29日	12人	おはじき	岡田トミ	竹駒小
6	4月18日	15人	おはじき	岡田トミ	高田一中
7	4月20日	13人	帽子づくり	菅野和子	竹駒・横田
8	5月9日	13人	民謡	中居テル子	高田一中
9	5月18日	14人	生け花	大森信子	竹駒小
10	5月24日	12人	生け花	大森信子	高田一中
11	5月26日	9人	民謡	中居テル子	竹駒小



# 平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議(月1回)の予定

## ○日程(予定)

H28年:4/15(金)、5/27(金)、6/17(金)、7/22(金)  
8/19(金)、9/16(金)、10/14(金)  
11/11(金)、12/16(金)

H29年:1/20(金)、2/17(金)、3/17(金)

## ○大きな方向性:私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

～ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの実践～

「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進、ハイリスクアプローチと  
ポピュレーションアプローチの融合・実践、市民・他分野機関との協働、未来  
図(計画)策定、居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

# 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

衛生 目次 | 陸前高田市の今 | 陸前高田市保健医療福祉包 | 陸前高田市保健医療福祉 | +

docs.google.com/forms/d/1ZVNHASz2jLrZp\_YAStoole-u6p6E7FmN8F9\_a1hBxxA/viewform?c=0&w=1

## 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 参加希望申し込みサイト

未来図会議への参加をご希望される方はここから申し込んでください。

\*必須

氏名\*

メールアドレス\*

# 次回(平成28年度第3回)未来図会議予定

## ◆日時

平成28年6月17日(金)13:30~15:30

## ◆メインテーマ(仮)

誰もが住みやすいまちづくりに向けて

~今ある差別の実感、できている・できていない合理的配慮~

## ◆会場:陸前高田市役所第4号棟第6会議室

## ◆次々回(平成28年度第4回)

平成28年7月22日(金)13:30~15:30